

聞く

「ここは昔、公園ではなく市民が元気に暮らしていた町でした。原爆投下前の様子と自らの被爆体験を話す山崎寛治さん
(午後2時10分、平和記念公園)」



見つめる平和

学びの8・5

巡る

大勢の入館者の中、悲惨な現実を顔を曇らせ
る外国人観光客の姿も目立った
(午後4時15分、原爆資料館)



食べる ホンダワラと米ぬかで作られた戦時食の江波だんごに、「ちょっと甘くておいしい」と親子で訪れた子どもたちは笑顔を見せた
(午後0時15分、市郷土資料館)



生ける 「平和への思いを花で表現したい」。観客が見守る中、花を生ける韓国のフラワーデザイナー金容文(キム・ヨンムン)さん
(午前11時、紙屋町地下街)



ともす 高さ25センチの灯籠360個に、平和へのメッセージを込めながら火をつける浴衣姿の小学生
(午後7時30分、本川小学校)



読む

平和学習会のひとつで、絵本「ピカドンたけやぶ」の読み語りをして平和を訴える牛田小の児童(午後2時20分、牛田公民館)



「原爆の日」を前にした五日、被爆地広島市に内外から多くの人が詰めかけた。ここかしこ、平和を学ぶ人の輪が幾重にも広がった。
中区の平和記念公園では、朝から原爆資料館への人波ができ、家族連れや若い人が慰霊碑を巡った。公民館などでは多くの平和学習会が開かれ、戦時食を試食して戦時中の苦しさも味わった。学生や外国人は被爆者の証言を聴き、涙を流した。夜になると、子どもたちが鎮魂の灯籠を並べ、原爆犠牲者を慰霊した。
ヒロシマは六日、原爆投下から六十二年を迎え、核兵器廃絶への気持ちを新たにする。(一面関連)

